

# 歴史都市たかおか

〜我らのまちに歴史あり!〜







# 高岡の成り立ち

## ～古代から現代へ～



皆さんこんにちは。「歴史都市たかおか」へようこそ！  
歴史の香り漂う高岡のまちをご案内させていただきます。  
どうぞよろしくお願い致します。  
さてまずは高岡全体の歴史について、少しお話をさせていただきます。

### 古代高岡

～万葉集との関わり～

高岡市周辺には、旧石器時代の石器や縄文・弥生時代の遺跡などが発見されており、人々の暮らしが営まれていたことがわかります。また古墳や横穴墓が多数発見され、古墳時代には有力な豪族が支配していたことが窺われます。

奈良時代には、伏木が国府とされ、高岡が越中の政治・文化の中心地となりました。そこへ国守として赴任してきたのが、大伴家持です。

家持は746年からの5年間の在任中に、高岡周辺の素晴らしい景観に触れた歌を詠んでおり、その歌が「万葉集」に220首以上収められています。



大伴家持像

万葉集にある家持の歌は約470首！  
半分近くが高岡の歌なんだね！



高岡の成り立ち

### 源平の時代

～かの義経も通った地？～

平安時代末期に武士が台頭し、全国各地で争いが起こる中、高岡の地にもその影響が及びます。

1183年、木曾義仲は越中国府で兵をまとめ、俱利伽羅峠にて平維盛の軍勢を打ち敗りました。

また平氏滅亡後は、奥州に向かう源義経が高岡市域を通ったと伝えられています。義経記にある「如意の渡」で弁慶が義経を打ち据える話は、後に能「安宅」、歌舞伎「勧進帳」等でも演じられました。



如意の渡義経と弁慶像



他にも、義経一行が  
雨宿りしたという  
雨晴岩もあるんだって。

### 鎌倉・室町時代

～周辺は戦乱が続く～

武士が力で領地を奪い合う時代となり、高岡周辺地域の支配者も移り変わっていきます。

鎌倉時代には北条氏の流れをくむ名越氏が越中守護職にありましたが、

その後は桃井氏、斯波氏などが守護職として越中を治めます。桃井氏の時代には二上山に守山城が築城されたと云われています。

室町時代には守護代として神保氏が越中を治めるようになりましたが、やがて上杉謙信や織田信長との争いに巻き込まれます。

信長死後は一時期佐々成政が越中を治めるものの、1585年、羽柴秀吉の大軍が侵攻して勝利し、越中の大部分は前田利長に与えられることになりました。

ここから前田家の治世です！  
利長公、よろしくお願ひします！



高岡年表	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山
	746 越中国守として大伴家持が赴任	1184 石黒氏により木舟城が築城される	1221頃 木造の高岡大仏が二上山麓に建立	南北朝頃 恒性皇子が二塚に配流、翌年殺される	1585 前田利長が守山城に入る
	751 大伴家持、都へ帰る	1186頃 源義経が奥州へ向かったため 高岡市域を通過する	1332 恒性皇子が二塚に配流、翌年殺される	1584 勝興寺が現在の地へ	1586 天正の大地震発生、木舟城崩壊
	1183 木曾義仲が越中国府に軍勢を集め、 俱利伽羅峠で平氏を破る				

### 高岡歴史 マメ知識



高岡市の二塚には、「恒性皇子の墓」があります。恒性皇子は後醍醐天皇の倒幕計画失敗により、二塚の地へ流されていました。後醍醐天皇は再び挙兵して倒幕に成功しますが、皇子は殺されてしまいました。また皇子を殺した越中守護の名越氏も、一週間後に滅亡してしまいました。一つの成功の裏には無数の悲劇があるのですね。



# 高岡開町

鳳凰の鳴く瑞兆の地

加賀・越中・能登合わせて百万石もの所領を治めた加賀前田家二代当主の利長。家督を譲って隠居していましたが、隠居先の富山城が1609年に焼失してしまいます。これを機に、荒地であった関野の地に城と町を築き、「高岡」と名付けました。



前田利長像

高岡という地名は、「鳳凰鳴矣于彼高岡（鳳凰鳴けり彼の高き岡に）」という、中国の「詩経」の一節にちなんだのだとか。鳳凰は徳のある君主が現れる兆し、ということと、まさに利長の善政を予言した素晴らしい地名です。



普段何気なく使っているけど、実は深い意味があるんだ…



高岡の城下町には家臣団の他に、土地を無償で与えるなどの施策によって、各地から商人や職人が集められました。1611年に高岡へ招かれた7人の鑄物師は、釘や金具といった町づくりに必要な道具の他、鍋や釜などの製造販売を独占的に行うなど、集まった人々が商工業の基礎を築きました。

高岡の成り立ち

# 一国一城令

衰退の危機と転出禁止

利長の死去後、幕府の一国一城令により高岡は廃城となつてしまい、武士が金沢へ引き上げ、町人も転出したことで町は急速にさびれ始めました。

そんな中、三代の前田利常は、利長の築いた高岡の衰退を止めるべく、高岡町人の他所転出を禁じました。そして、米や麻布の集散地としたり、米蔵・塩蔵や問屋を設置するなどの振興策によつて商工業都市への転換を図つたのです。これが見事に成功し、高岡の産業は発展していきました。



高岡が衰退しなかったのは利常のおかげだったんだ、ありがとう！

# 瑞龍寺

いぎとなつたら城代わり!?

利常は、高岡の発展を図る一方で、兄・利長を弔うための菩提寺として約20年の歳月をかけて瑞龍寺を建立しました。寺の周りには濠をめぐらし、いぎとなれば防御用の城として使えるほどの造りになっていました。ただ兄の遺徳を偲ぶだけでなく、非常事態も想定するという利常の用意周到さが窺われます。



瑞龍寺仏殿



# 高岡年表

百万石もの藩だったから、幕府からいろいろ目を付けられたと思うけど、大きな事件もなかったんだね～。

昭和	明治	江戸	
1933	1900	1620	1605
		1615	1609
		1614	同
		1611	利長、高岡城を築き城下町を開く
		1645頃	7人の鑄物師が高岡へ招かれる
		1646	前田利長没する
		1658	前田利常没する
		1663	瑞龍寺が完成する
		1889	市制施行により「高岡市」となる
		1900	高岡大火
			現在の高岡大仏が完成する
			他所転出を禁じる
			高岡城を築き城下町を開く
			富山城焼失
			前田利長、家督を利常に譲る

加賀藩が安泰だったのは、前田のお殿様のおかげです。それは次ページで紹介！



# 諸藩石高ランキング

1位	加賀藩(前田家)	102万2千石
2位	薩摩藩(島津家)	72万8千石
3位	仙台藩(伊達家)	62万5千石
4位	尾張藩(徳川家)	61万9千石
5位	紀州藩(徳川家)	55万5千石
6位	熊本藩(細川家)	54万0千石
7位	福岡藩(黒田家)	52万3千石
8位	広島藩(浅野家)	42万6千石
9位	長州藩(毛利家)	36万9千石
10位	佐賀藩(鍋島家)	35万7千石

※幕末時点のもの。幕府直轄領は除く。

# 高岡歴史 マメ知識



前田利長は1609年に高岡城を築きましたが、実はそれ以前にも高岡の地に縁がありました。1585年～1597年の12年もの間、二上山にあった守山城にいたのです。20代半ば～30代後半の青年期を過ごしたことで、高岡の地の将来像を思い描いていたのかもしれませんがね。



## 前田家の系譜

〜百万石の賢君たち〜

江戸時代に高岡を治めた前田家について、ここで振り返ってみましょう。

加賀前田家の

祖、前田利家は織田信長に仕え、槍の名手だったことから「槍の又左」と怖れられ



前田利家像

れました。数々の武勲を挙げて大名となり、最終的には豊臣家の五大老に任ぜられます。

利家の死後、二代の利長は徳川家康からの圧力によって母親を人質に差し出します。苦渋の決断でしたが結果的には、前田家は加賀百万石の所領を明治に入るまで守ることが出来たのです。

時には我慢することも大切だよ…



三代の利常は、利長の異母弟で、歳は30以上も離れていましたが、跡継ぎのない利長から家督を相続することになりました。二代将軍秀忠の娘・珠姫を妻として迎えており、子や孫の代にも徳川との血縁

関係を深め、徳川家との良好な関係を維持して藩を守ることに努めたのです。



前田利常像

## 旧北陸道、伏木・吉久の発展

〜物流の中心に〜

先に触れた利常の高岡振興策により、加賀百万石の経済特区ともいえる扱いになった高岡は、街道や河川を利用して物流経路を構築しました。

旧北陸道沿いでは、御蔵の置かれた立野や菅笠の集散地となった福岡等の土地が発展します。

また河川で米などの物資が集められた伏木は、北前船による交易も盛んで、港町として発展しました。伏木港に近い吉久では、加賀藩でも最大級の御蔵が置かれ、拠点として重要な役割を果たしました。

今も昔も、物流拠点として経済発展の大きな要素なんだね。



## 教育・文化と祭礼行事

〜羨望の御車山!〜

町人が経済力を高めると、生活のゆとりから教育や文化にもエネルギーが注がれていきました。

高岡でも私塾開講や儒学者招聘により、上層町人や医師の子弟が熱心に学問に取り組みました。

そして高岡の御車山は、金工や漆工等、高岡の工芸美の粋が尽くされ、教養も誇る町人の総合文化となりました。御車山は繁栄の象徴として



御車山

他の町からの憧れとなり、周辺各地で曳山が作られることにもなりました。

高岡市域各地の祭礼も、前田家への報恩感謝として行われるものや、町人の豊かさから華やかで盛大に開催されるもの等、高岡らしさが窺われます。

## 明治以降の「高岡市」

〜大火にも挫けない〜

明治時代になっても高岡は経済力を発揮しました。1889年に市制が施行された際には、高岡は全国初の「市」の一つとなります。この年以降、山町の豪商らが銀行や紡績会社等を次々と設立して近代化の道を歩みました。

そんな中、高岡を揺るがす一大事が発生します。1900年の大火により、山町など市街地の約6割もが焼き尽くされてしまったのです。この教訓を生かし、山町では防火性能に優れた土蔵造りで建てられることとなり、それが現在の町並みにも残されています。



100年以上前の建物が今も使えるんだ! 先人の知恵が結集した造りだね!

それでは歴史的な見所を地図にてご紹介! 次ページへどうぞ!



# 高岡町拡大図



高岡市立博物館 常設展ガイドブック『高岡ものがたり』 江戸時代末期の高岡町(推定)を参考に作成した。



高岡大仏も、高岡町の中で町人の暮らしを見守っていたんだよ！

としなが  
利長が築いた高岡城と、その城下に集まった町人たちの営みが、「高岡」のまちの始まりです！  
利長が町人に無償で土地を与えた「本町」と呼ばれる35町の他、武家屋敷跡などに町人が移住した「地子町」も広がり、江戸時代末期には計62町がありました。  
このお城跡を中心とした一帯を「高岡町」として、行政が行われていたのです。



## 高岡歴史 マメ知識



高岡の城下町が出来たときに、町人に無償で土地が与えられました。各町の名前は、出身地や職業、人名・地名などから成り、例えば油屋の多かった「油町」、旧守山城下の人が移り住んだ「守山町」などなど。「一番町」「二番町」「三番町」はわかるかな？ そう、一番目、二番目、三番目に出来た町です！



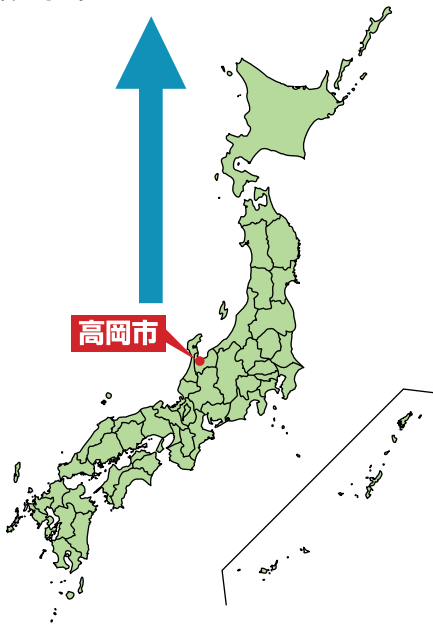
# 高岡市域地図



□の範囲は現在の高岡市域。街道などは江戸時代のもの。

高岡町拡大図  
高岡市域地図

さあここからは、各歴史ポイントを説明します！  
まずは、まちの始まりとなった高岡城や山町・金屋町など中心部から行きますよ！



利常以降の加賀藩の政策で、高岡町周辺も発展していったのです。河口に近い伏木・吉久や、旧北陸道沿いの町が栄えました。  
伏木は、万葉文化でおなじみ・大伴家持が赴任した、国府があった土地でもありますよ。



## 高岡歴史 マメ知識



加賀藩は百万石とも言われましたが、そのうち高岡にはどれくらい米の収穫量があったのでしょうか？  
1670年の年貢取決め文書「村御印」に記されているところでは、現在の高岡市全域でおよそ9万4千石の収穫量があったようです。ちなみに1石は、大人1人が1年間に食べる米の量とほぼ等しいのだとか。

# 高岡城

## ～現代に残る幻の城～



### 加賀前田家

～政治的決断～

前田利家は、加賀前田家の創始者で、豊臣秀吉亡き後、天下を狙う徳川家康に唯一睨みをきかす実力者でした。しかし、その利家が亡くなると、家康はここぞとばかり加賀征伐を企て、加賀前田家存亡の危機を迎えます。この危機を回避するため、利家の嫡子、前田利長は、実母の芳春院(まつ)を江戸に人質とし、また自身は早々に隠居し、まだ十三歳の弟、利常に家督を譲るなど、当面は衝突をさけるために苦渋の政治的決断をくだします。

加賀前田家は、多くの大名が取り潰されるなか、ひたすら江戸幕府に従い、明治維新まで加賀百万石とよばれる大藩を守ってまいりました。

### 隠居城築城

～有事においては戦略拠点～

1609年、富山城を焼失した利長は、当時の前田家領国、加賀、能登、越中のほぼ中心にあたる射水郡関野の地に城の建設許可を江戸幕府に願います。家康から直々に許可を得た利長は、庄川と小矢部川の大きな2つの

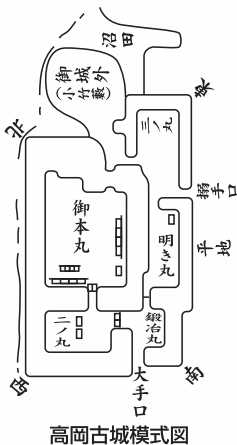
高岡城

河川の扇状地にある丘陵に城を築き、以降この関野の地を高岡と改めました。設計は築城の名手、高山右近が自然の地形を生かし、行つたといわれています。



高山右近像  
右近は西洋技術に通じ、築城術に素晴らしい才能を発揮しました。高岡城築城が最後の仕事といわれます。

高岡城の曲輪構成は本丸、二ノ丸、明き丸、鍛冶丸および三ノ丸からなり、総面積約7万坪という広大な城域を有し、その約3割を深さの異なる3つの堀が占めていて難攻不落の様相です。



大坂の陣の前でもあり、徳川の天下といえども、まだ定まったとはいえず、当時、高岡城は、広く見渡すことのできる丘にあり、そして周囲の2つの河川が防御面、そして運輸面で大きな役割をはたし、さらに周辺諸城との連携も大いに期待でき、隠居城とは名ばかり、有事の備えであると加賀前田家は

考えていたのです。実用的な城として、高岡城の築城は異例の早さで進んだのでした。

高岡城の大規模工事をわずか半年で仕上げたそうだよ。よほど用意周到に準備していたんだね。



### わずか5年あまり

### 幻の城

急ピッチで造られた高岡城。完成しわずか5年あまりで城の主であった利長が五十三歳で亡くなってしまいました。その翌年には江戸幕府が一国一城令を発令し、高岡城は廃城となりました。

廃城によつて、取り壊されたため、高岡城の建物は現存しておらず、図類も記録もほとんどありません。それゆえに幻の城と表現されることもあります。

一国一城令がなければ、高岡城を現在見ることができたかもね。お濠には、こんな伝説もあるよ。次のページへどうぞ。





# 枳形濠と龍女の伝説

高岡城が出来上がっても、枳形濠はいくら掘っても水が出ませんでした。能登の廻船問屋の娘、お光がその話を聞き、見物に来るや、お光は、「私の住む所はここと決まっております。」



と言うなり、濠に身を投げてしまいます。とたんに稲妻が突き刺さり、水がこんこんと湧き出、一匹の巨大な龍が現れたといいます。

## 高岡城址(古御城)に蔵

### 加賀藩物資の集散地へ

廃城後、加賀藩は建物を壊しても、土塁を壊したり水濠を埋めたりすることなく、高岡城址の要塞としての機能は残りました。

幕府の命令である一国一城令に、当時の大名達は城郭を根本的に消滅させたりせず、消極的に対応したといわれます。石垣もある程度は崩したと思われませんが、星濠だけはほとんど原形のままであったため、定塚町を町ごと移転させ、江戸幕府への目隠しにしたといわれます。



定塚町が以前あった場所は現在の古定塚地区。移転にもない、旧北陸道も古定塚から高岡城近くを通るルートに変わったんだ。

しかし、要塞は残しても武士は金沢へ引き上げ、やがて人もいなくなつてしまい、利長の作るうとした城も町も失われてしまいそうになります。

そこで、16

20年に利常は住民に他所転出を禁じ、それと同時に、加賀藩の米、塩、火薬の蔵を高岡城址におき、軍事拠点としての機能を密かに維持しながら、高岡城址を物資の集散地としました。

そして町には綿の市場を設け、さらに商人たちを経済的に庇護し、以降、高岡の町は城下町から商工業の町へと再生します。大きな蔵のある高岡城址は「古御城」とよばれ、加賀藩物資の集散地のシンボルとなります。

利常は幕府からの警戒を避けるために、わざと鼻毛をのぼして、愚君を演じ、加賀藩を守ったといわれているよ。



## 高岡古城公園へ

時代は明治に変わり、1870年(明治三年)、金沢藩は高岡城址を驚くほど安い値段で売却し開発しようとなりました。



定塚町周辺図

長年、高岡町民が親しんだ「古御城」を守る動きが、服部嘉十郎らを中心に公園指定請願運動に変わり、1875年(明治八年)「高岡公園」と命名され、公園に指定されました。現在では射水神社、動物園、市民会館、博物館、体育館がおかれ、緑と水に囲まれた市民の憩いの場となっています。



春は桜の名所として、日本さくら名所百選に選定され、園内約2700本の桜が咲き誇ります。毎年、お花見客でにぎやかだね。



現存する石垣



濠の上に咲き誇る桜



大きな水濠

高岡城は、2006年、日本城郭協会より富山県で唯一、日本百名城に選定されました。



# 御車山と山町

## ～これぞ町衆の心意気～

ここでは、商都高岡の中心であった山町の成り立ちと由来、  
そこで行われる御車山祭について紹介しますよ。  
なんで「山町」って呼ぶのかな？



### 高岡開町と山町の由来

高岡は、今から約400年前の江戸初期1609年に、加賀前田家二代当主前田利長の隠居城である高岡城を築城した際に城下町として開町されたのが始まりです。利長は、段丘状の地形を生かして、上段に城と武家屋敷を、下段に碁盤の目状に区画した商人町をつくりました。商人町には、近くは富山・守山・木舟の旧城下町や、尾張・近江・越前から招かれた町人が移り住みました。その中でも、当時のメインストリートである北陸道沿線の町



越中国高岡関野神社祭礼繁昌略図付録



山車(やまこ)を持つ町だから「山町」なんだね!

には前田家伝来の「御車」が与えられ、後に飾り立てて町内を曳き回す「高岡御車山祭」が起りました。その「山車(やまこ)」を与えられた通町・御馬出町・守山町・木舟町・小馬出町・一番町・二番町・三番町・源平町と坂下町の10町を総称して「山町」と呼びます。

### 城下町から商業の町へ

城下町として発展しようとした矢先、高岡城主利長が亡くなります。高岡入城5年後の事でした。さらに追い打ちをかける様に1615年に一国一城令が出され、高岡城は廃城・取り壊しとなりました。城が無くなった城下町は衰退するしかありません。それを憂いた三代前田利常は高岡を城下町から商工業の町へと生まれ変わらせることにしました。藩内の「米」や「綿」の集散地としての役割を与え、「北陸の大坂」とまで呼ばれるほどに繁栄し、城下町から商業都市へと変貌を遂げていきました。

加賀百万石の流通の中心地として栄えたんだよ。



### 山町歴史年表

平成	昭和	明治	江戸	山町歴史年表
2000	1992	1900	1609	高岡城築城とともに山町開町。
			1611	前田利長より御車を拝領する
			1614	御車山祭りが始まる
			1615	前田利長没する
			1885	一国一城令により高岡城廃城
			1893	高岡に米商会所が開業
			1900	日本海側の紡績工場
			1985	「高岡紡績株式会社」設立
			1992	高岡が大火に襲われる。
			2000	この後より土蔵造りの町並みが生まれる
				取り壊しが進む土蔵造りの町並み保全の動きが高まる
				「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」の設立
				山町筋が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定される

### 商都高岡の発展

明治期に入って商都高岡はさらに大きな発展を遂げます。当時、越中におけるもっとも重要な産業であった米の流通を担っていたのが、高岡の米商人でした。高岡ではそれまで金沢にしか設置が認められていなかった米商会所が開業し、豊かな穀倉地帯である砺波・射水平野を背景地とする高岡の米取引が活発化していきました。それに伴い山町筋の大商人達がさらなる発展を遂げ、山町筋の豪商を中心とした銀行の設立、日本海側の紡績工

### 高岡歴史マメ知識



御車山祭は山町の住民だけで行われているわけではありません。曳き方や囃し方は市内近隣の方が担っています。特に囃し方は世襲制とされ、山車とは違うところで御車山の伝統が受け継がれています。また囃し方の演奏する雅楽を元にしたお囃子は、高岡独特のものであるようです。



場「高岡紡績株式会社」の設立など、次々に会社を興して近代産業への転換をいち早く行いました。また、鉄道の開通、伏木港の開港場指定など、流通システムの整備も図られ、さらに商都高岡は隆盛を迎えました。

北陸一の都市を目指して頑張っていたんだよ!



## 壊滅的大火と「山町」の土蔵造りの町並み

1900年、商業都市として繁栄していた高岡の町は未曾有の大火災に襲われ、市域の6割近くが焼失しました。壊滅状態になった「山町」のなかで土蔵造りだった建物が焼失を免れたことから、復旧の際には防火構造の「土蔵造り」が取り入れられ、今日残る土蔵造りの町並みが誕生しました。この土蔵造りの町並みは防火を主眼に建てられています。山町商人の財力と先進的な文化性の結果、意匠的に優れたものが多くあります。

現在の山町には、土蔵造りを中心とする50棟以上の伝統的建造物が残されています。

山町の土蔵造りは、基本的に切妻造

**山町マップ**

■ 旧北陸道 ■ 土蔵造りの家

高岡米穀取引所(高岡米商会所の後進): 現在の高岡郵便局向いの旧NTTビル

正面のアーチ状の装飾が特徴的な井波家

代表的な土蔵造りの家: 菅野家住宅

赤レンガの銀行の愛称で親しまれる富山銀行本店

2階の観音開き扉が無い旧室崎家。現在は「土蔵造りのまち資料館」となっている

2012年10月現在

和風建築の中に西洋テイストを盛り込んだ建物が立ち並ぶハイカラな町だったんだね。



平入2階建ての土蔵造りで、黒漆喰を塗り、2階に観音開きの扉を付けた様式です。代表的なものとして、北前船による交易や金融、紡績などで財をなした高岡有数の名家「菅野家」があります。現在も住宅として利用されながら一般に公開されています。

山町の町並みにはそれ以外の意匠の建物も見受けられます。2階の観音開きの扉が付けれられていない「旧室崎家」や外壁を白漆喰塗りにした「旧井上家」、建物正面上部をアーチ状の鋳物で装飾した「井波家」などがあります。

また、山町筋でもひととき目を引く本格洋風建築である現在の富山銀行本店は、大正四年に「高岡共立銀行本店」として建設された鉄骨レンガ2階建ての建物で、内部は大理石のカウンターや頭取室のステンドグラスが当時のまま残されています。このように、往時の山町の繁栄を彷彿とさせる建造物が表通りだけではなく、裏手の通りにも数多く残されておりあります。

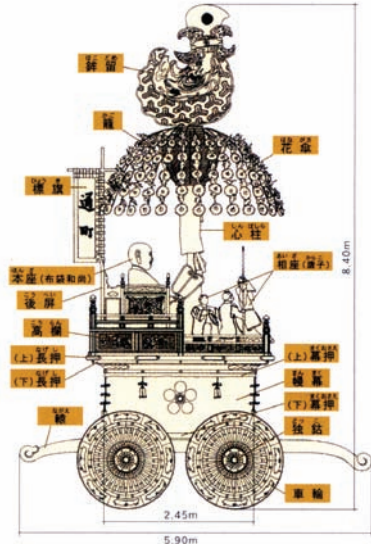


現在は赤レンガの銀行しか残っておりませんが、かつては白・黒の銀行が存在しており、色で銀行を呼び分けていたそうです。黒の銀行は「旧十二銀行」として現在の高岡信用金庫の場所にありました。白の銀行は「旧高岡銀行(改築後の二代目の建物)」として現在の松村物産GS跡地にあったようで、当時はかなり美しい建物だったそうです。

# 「山町」と「御車山祭」

高岡の祭を代表する「高岡御車山祭」は、毎年5月1日に行われる高岡関野神社の春季例大祭として山町を中心に行われます。国の重要有形・無形民俗文化財に指定されており、日本全国でも京都祇園祭など5件しか指定されていないの一つです。

1588年、太閤豊臣秀吉が、後陽成天皇を聚楽第に迎えたときに使用した御所車を前田利家が拝領し、二代前田利長が1609年に高岡開町の際に、町民に与えたのが始まりと伝えられています。この御所車に鉾・花傘・本座・相座などを据えたものが「御車山」で、優れた工芸技術を持つ高岡の金工・漆工・染色の職人達の粹を集めた装飾が車輪や高欄、長押等に施された日本屈指の華やかな山車となっています。町衆の財力と文化性の高さ、御車山に対する心意気が表れています。



御車山の各部の名称

通町・御馬出町・守山町・木舟町・小馬出町・二番町は1町で1基の山車を保有し、一番町・三番町・源平町の3町は「一番街通り」の山車を共有しています。また坂下町は山町の中で唯一、山車を持たない代わりに、御車山を先導する獅子頭・源太夫獅子を保有しています。

山車ごとに特徴がありきらびやかな装飾も見所のひとつですが、何よりも土蔵造りの建物が立ち並ぶ山町筋での巡行の様子が最大の見所です。

2014年度に実際の山車の常設展示や平成の御車山の展示が行われる高岡御車山会館が完成するんだって！



## これからの「山町」

かつては高岡の経済の中心地であった山町も時代の流れの中で土蔵造りの町並みを維持することが困難になり、取り壊される家屋が多くみられるようになってきました。そんな中、町並み保存の気運が高まり、住民は「山町」の魅力を再発信する活動を始めました。いくつもの団体が通りを活用したイベント開催、空き家への店舗誘致、企業との連携など「山町」の新たな可能性を創造し続けています。高岡開町以来受け継いできた伝統を守りつつ、新たな魅力を発信し続ける姿に町衆の心意気が息づいています。

御車山と山町

## 山町の町歩きポイント

山町の見どころは何と言っても土蔵造りの町並みです。そんな山町の町歩きをさらに楽しむためのポイントがあります。それは山町に隠れている様々な「文様」探しです。そのいくつかをここで紹介します。

ひとつめ。実は、山町では町ごとに家紋

の様なもの、「山町紋」を持っているのです。山町内では「山町紋」を使って町名を表すこともあるそうですよ。提灯や御車山祭の曳き方の法被にも「山町紋」が入っているようですので、10町すべて探してみたいかがでしょうか？



守山町の山町紋「釘貫紋」

また、木舟町にある旧家「菅野家」の塀には源氏香の様な文様が描かれています。源氏香とは、香道でのお香の組み合わせを表す文様の事で、源氏物語になぞられて各巻の巻名が振り当てられています。「菅野家」にあるものは実際の源氏香とは異なるようですが、とてもよく似ていて、当時の文化レベルの高さが想像できます。他の住宅にも描かれているとのウワサもありますので、新たな源氏香の発見者になれるかもしれませんよ。



菅野家の塀にある源氏香(?)

屋根や軒先を見てみると面白いよ！

屋根や軒先を見てみると面白いよ！





もりやままち  
**守山町**

ここれい  
鉾留:五鉾鈴



五鉾鈴とは密教の仏具の一種です。修行の際、仏様を呼ぶ、送る時に鳴らすものとされ、その音色が仏様や人々の注目を集め、歓喜させると言われています。

えびす  
本座:恵比寿



七福神のひとつとしてあげられる福の神。左手に釣り竿、右手に鯛を抱えています。漁業の神として崇められると同時に、網ではなくて釣り竿を持っていることから、暴利を貪らず将来を見据えた商売ができる、清廉な心の商売人の象徴とされました。

おんまだしまち  
**御馬出町**

やなくい  
鉾留:胡筈に弓矢



胡筈とは矢を携帯する為に腰につける容器で、弓矢が据えられています。武士の象徴のひとつでしょうか？

さのびんざえもん  
本座:佐野源左衛門



佐野源左衛門は能の演目「鉢木」の登場人物です。鎌倉時代の貧しい武士でしたが、旅の僧に身分を隠した時の権力者に一夜の宿を求められ、大切にしていた梅、桜、松の盆栽を薪にして暖をとるなど精一杯もてなしをし、落ちぶれはしたが「いざ鎌倉」という時には駆けつけ命を懸けて戦う所存であると語ります。その後、実際に召集があった時に駆け付けたことで恩賞を与えられました。質素であるが精一杯のもてなしをする、常に忠義心を持ち続け、いざ君主に何かあった時には真っ先に駆けつけようとする姿が武士道を語る演目として特に江戸時代に好まれました。

とおりまち  
**通町**

とりかぶと  
鉾留:鳥兜



ほうおう  
鳳凰の頭を模した帽子の一種で、舞楽装束に使用される。高岡の名前の由来と関係が…？

ほていおしやう  
本座:布袋和尚



相座:5体の唐子人形



からくりが施されており、中央の一体が回転棒を握りてんくり返しをします。通町の山車の象徴的存在です。

きふねまち  
**木舟町**

こちやう  
鉾留:胡蝶



蝶です。特に胡の国(中国北東部)の蝶を指します。

本座:大黒天



相座:唐子人形一体



七福神のひとつである大黒天は食物・財福を司るとされ、そこから五穀豊穡の農業の神として崇められるようになりました。右手に持った打ち出の小槌は無尽蔵の財を生み出すとされながら、頭に被った頭巾が上を見ない=多くを望まない謙虚な商売人を表すとされています。また、大黒天の前に据えられた相座の唐子人形はコミカルに太鼓をたたくカラクリが施されています。

国の重要有形・無形民俗文化財指定!

**御車山の紹介**

みくるまやま  
高岡御車山には、本座、相座、鉾留を始めとした意匠を凝らした装飾が各山車ごとになされています。

ここでは、山車に据えられている本座、相座、鉾留を中心に各山車の特徴を紹介します。



こんまだしまち  
**小馬出町**

鉾留:太鼓に鶏



中国の故事を元にする縁起物です。善政の象徴、天下泰平の証から家内安全・商売繁盛に通じると言われています。

しょうじやう  
本座:猩々



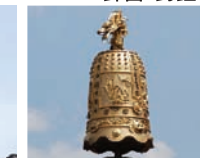
相座:猿



能の演目「猩々」の面を被り右手に扇子を持って舞う様子を表しています。この演目の中で猩々は海の神であり商売繁盛の象徴として描かれています。また七福神に数えられた時代もありました。

いちばんまちどお  
**一番街通り**

鉾留:釣鐘



「相生の松」のひとつに数えられる尾上の松がある尾上神社内に納められている播州高砂尾上の鐘を模して作られたものです。能の演目「高砂」でもその鐘の音が謳われています。

しょううば  
本座:尉と姥



能の演目「高砂」の一場面、相生の松の精である尉と姥が相生の松を掃き清めている様が表現されています。相生の松は諸説ありますが、離れた場所が生えている二本の松が地中で根っこを同じにしているといわれ、夫婦円満を象徴しています。

にばんまち  
**二番町**

鉾留:桐



桐は古くから鳳凰が止まる木として神聖視されており、桐が用いられた家紋は大変高貴な紋章とされました。天下人が象徴する家紋ともいわれ、太閤豊臣秀吉も天皇から賜っています。

せんまいぶんどう  
本座:千枚分銅



本座に置かれた重千枚分銅は富貴を表現しています。また、相座にあたる山車前部に熊野権現を守護神とする熊野神社の朱塗りの鳥居が置かれています。他の6基と異なり、本座に人形以外のものが置かれているのは二番町の山車だけです。

熊野神社の鳥居





# 鑄物のまち金屋町

## ～今に息づく伝統産業の興り～



### 招かれた由緒鑄物師

#### 略歴、居住地とその待遇

利長により高岡に招かれた7人衆は、古来より朝廷に仕える由緒ある勲許鑄物師の流れをくんでいました。

河内丹南(現・大阪府堺市)に居住していたその鑄物師集団がのちに各地に転住。その末裔が開町時に西部金屋村(現・高岡市戸出西部金屋)に住んでいました。

輸送の便や防火に適した千保川左岸に長さ百間、幅五十間(5000坪)の拝領地(宅地)と5か所の吹き場(鑄物作業所)を与えられた場所が現在の金屋町です。

### 鑄物師招聘の理由

#### 生活必需品で産業振興

開町当初は、城や橋など町づくりのために鉄釘や金具類が必要だったといわれています。

また、現在は銅器・アルミ産業が主力ですが、



当初は鉄器(鍋、釜などの日用品、鋤、鍬などの農機具)を主に製造していましたが。特に鍋釜は生活必需品であり、非常に需要がありました。

### 仁安の御繪旨

#### ルーツを示す金屋の宝

御繪旨とは、朝廷の機密文書などを扱う蔵人所から発行された文書の事で、天皇御璽(印)が押されています。

金屋町に伝わる御繪旨は七十九代六条天皇の代、仁安年間の1167年に発行され、高岡鑄物師の祖に賜りました。内容は、「年貢の元となる鍋釜、鋤、鍬等を作る者達なのだから関税など取らず保護するように」といったもので、鑄物師達は江戸期を通じて、鑄物の専売・通行の自由といった権利を与えられるなど厚く保護されました。

由緒鑄物師として特権を与えられた事を示す、金屋町の人びとが大切にする宝なんだ!



### 金屋町鑄物歴史年表

平成	昭和	大正	明治	江戸
2011	1945	1935	明治末期	1611
高岡鑄物の製作用具及び製品が国の登録有形民俗文化財に登録	↓銅器産業が一息途絶える アルミでの鍋釜生産開始。 現在の高岡アルミ産業の礎に	戦争による金属供出令 鑄物生産量日本一	↓現在の高岡銅器産業の土台に キューボラの導入。大正期にかけて ニシン釜の大量生産大ヒット 設備の機械化で分業化。	高岡へ7人の鑄物師を招き、 鉄器・鉄鍋・鉄釜を生産 江戸中期以降 銅器(梵鐘・仏具・火鉢)の製造も盛んに 日用品から美術工芸品への転換。 国内外の博覧会に参加、

7人から始まった鑄物の歴史が、現代にも受け継がれているんだね!



鳳鳴橋の鳳凰像

### 高岡歴史 マメ知識

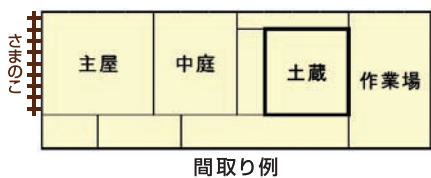


金屋町で生産された鍋釜は生活必需品でしたが7～8割の庶民にとっては高価で買う事はできず、貧鍋・貧釜業者が買い取りそれを年間一程度で貸し付けていました。この慣習は昭和初期まで続きました。まず、そのような生活必需品のロングセラーを作る鑄物師に目をつけたあたり利長にはやはり先見性があったといえそうです。





さまのこの町並み



家屋の多くは明治～大正期のもので、造りは一般的に切妻造り・平入り・2階建てです。鋳物を扱うことから防火対策として主屋・中庭・土蔵・作業場(吹き場)という配置となっています。

また、万一の火災の際には、土蔵の引き戸の周囲を味噌で目張りして主屋への延焼を防げるようになっていきます。

約500mにわたって続くところどころ銅板入りの石畳の道と狭間虫籠(千本格子とも)の古い家並みが見事に調和し、一帯は明治・大正時代を彷彿とさせます。

また、金屋町は山町筋とともに、県内では数少ない伝統的建造物群保存地区に指定されています。

## 石畳とさまのこ

「工夫凝らした耐火設計住居」

## 御印祭とやがえふ

「利長公への報恩感謝」

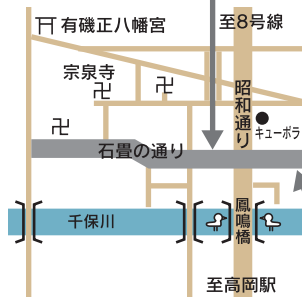
御印祭は、利長より拝領した宅地をはじめ、多くの手厚い保護に対して報恩感謝の誠を捧げ、その遺徳を偲ぶための祭りです。

利長の命日(旧暦の5月20日)に合わせ毎年6月20日に行われています。当初は利長の親書(金屋町御印)が祀られ、ついで利長の絵像を礼拝していったようです。

昭和初期、キューポラの登場で歌われなくなった「やがえふ」の復活が試みられ、1952年より前夜祭の19日に鋳物師の心意気を歌に、「弥栄節町流し」が始まりました。



やがえふ



## 近代化の象徴「キューポラ」

「ニシン釜のヒット」

近代化以前の大型鋳造は「板人」が木製の大きな「たたら」を踏んで風を炉に送り、地金を溶かす方法でした。

たたら踏みは明け方まで長時間続く重労働で、最も激しい作業の際その疲れを紛らわせ、調子を合わせるため歌われたのが労働歌「やがえふ」です。

そして明治末期、古来から伝わる方法での重労働から人びとを解放した設備が新式溶鋸炉「キューポラ」でした。



キューポラ

キューポラはレンガ積みの高い煙突を持つ、地金(鋳鉄)を溶解するための設備です。送風装置にはたたらに代わり、送風機が使われ、燃料には高熱を得られるコークスが使われました。

当時金屋町には多くのキューポラが建造されたといわれます。このキューポラにより、最盛期には年間5千個ものニシン釜が製造されニシン漁が盛んであった北海道へ送られました。

その姿を残す旧南部鋳造所のキューポラ及び煙突は1998年に稼働を終え、国の登録有形文化財に指定されました。

現在は新たな展開としてインテリア用品等、今のライフスタイルに合うデザイン性の高い製品も作るなどして金屋町はその歴史を刻み続けています。

昔の鋳物造りは大変な作業だっただね



金屋町ではどの家も間口が狭い縦長の間取りとなっており、戸を全てはずしたら冠婚葬祭すべて家の中のできるような造りになっています。通り沿いの主屋には、店(接客・商談スペース)、茶の間(帳場)、中の間、座敷があり、間に中庭を挟み、土蔵、作業場(吹き場)という構成となっています。



# 瑞龍寺

～秘められた前田家の意志～

曹洞宗高岡山瑞龍寺は前田利長の菩提を弔うために三代利常により建立された寺です。七堂伽藍を完備し山門、仏殿、法堂が、国宝に指定。総門、禅堂、高廊下、大茶堂、回廊三棟が重要文化財に指定されるなど、江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されています。

当時の歴史的背景から、利長の菩提寺という表向きの顔と、いざというときの出城、そして利長(前田家)を信仰対象とした社、という側面とを併せ持つと考えられます。



瑞龍寺仏殿



ここからは前田家ゆかりのお寺や前田家の治世に発展した地域をご紹介します！

## 前田利長墓所

墓碑は高さ11.75メートル、戸室石製の三重基壇の上に花崗岩製の笠付墓標がある構造。

1646年、遺体を火葬に付した跡に建てられ、石柵と濠に囲まれています。

墓守りとして傍らに移転新築された繁久寺で利長の三十三回忌法要が行われました。



前田利長墓所

## 八丁道



八丁道

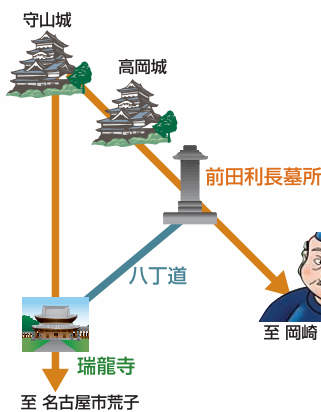
前田利長墓所とその西にある瑞龍寺とを結ぶ参道として整備され、長さが八丁(870m)あるところから八丁道と呼ばれています。当時は、参道に沿って堀が設けられ、有事の際には城砦となる瑞龍寺と墓所を繋いで、城南方の外郭防衛線となるべく造られたものと考えられています。

## 利長由縁の位置関係

山門前の石灯笼と同じ石(石川県・戸室山産)で造られた橋がいくつかありました。戦の時には、研ぎ澄まされた刀では実戦に不向きなので橋に刃を当てて刃こぼれさせました。



利長が12年間、居城した二上山の守山城の真南に瑞龍寺は位置しています。さらに南に延長した先には利家、利長親子の出身地である名古屋市荒子があります。また守山城と墓所を結んだ線上には高岡城が位置しています。そしてその延長線上には徳川家康の岡崎城があります。



当時の複雑な情勢の中、お家安泰を確立した利長、利常の想いが、この位置関係にも表れているのかも知れません。







法堂(回廊)



法堂(位牌)



山門→仏殿

立山に向かって建てられていることがわかります。お殿さまを霊山へ送る想い、瑞龍寺へと迎える想いを感じることで、この場所です。

法堂内の利長の位牌を見ると前田家の隠された想いが浮かび上がります。中央に配置されあまりに大きすぎる利長の位牌。その手前の柱と梁の形は鳥居の様。ダヴィンチ・コードさながらに深読みしてみましよう。

山門と回廊による結界に守られた聖域、仏殿。一番のパワースポットと考えられる仏殿は写景(仏殿が山門の中にきれいに納まる)を考えられ、聖域の真ん中より、やや後方に配置されています。

# 知る人ぞ知る 瑞龍寺の不思議

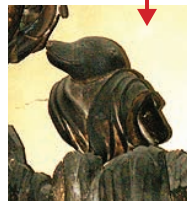
## パワースポット

## 前田家からの暗号

## マウンテンビュー



トイレの神様で有名な烏瑟沙摩明王像に高岡ならではの秘密。明王の足元の猪頭天(頭が猪のヒト)の「耳」。御札のものには「耳」は描かれているのに像にはありません。「ネズミにかじられた説があるそうです。皆がご存じの「ネコ型ロボット」のモデルだったりして?」



## 烏瑟沙摩明王と猪頭天

## 伽藍配置

曹洞宗では師が弟子に大法を教える秘伝書に禅林七堂とし人体表相の七堂が伝わっていました。瑞龍寺の伽藍配置はこの方式がもちいられています。



## 歴史を感じる 瑞龍寺周辺の行事

### 燭光能(五月二十日)

利長の三十三回忌に金沢から能楽師を招いて燭光能を行ったのにちなんで再現されたもの。淡いろうそくの灯りの中で舞う幻想的な能です。

### ひとつやいと六月一日七日

その昔、雲水が足の疲れを癒す為に行ったのが始まりで、約250年以上続いているといわれています。両足の膝下にもぐさを置いてお灸をすえます。

### ライトアップ(不定期)

年に数回、夜間拝観が行われます。歴史解説を背景に、ろうそくからレーザーの光によって浮かび上がる瑞龍寺は、昼間の拝観とは一味違った幻想的な雰囲気を感じられます。

### 利長公顕彰祭(九月十三日)

利長が高岡へ入城した日を記念して顕彰祭が行われます。墓所内が一般公開されるといふ大変貴重な機会です。また繁久寺では記念茶会が行われます。



瑞龍寺の法堂に入ってすぐに上を眺めると格天井になっています。この天井は格式が高いことを意味する建築物です。この場で利長公の位牌に向かいひざまづけば、位牌の全景を拝することができます。お殿さまへの敬意を考慮した造りなのかもしれませんね。

# 勝興寺

～戦国大名が重視した一向宗の拠点寺院～



勝興寺本堂

北陸の古刹。  
「ふるこはん」の愛称で知られているよ。



浄土真宗寺院勝興寺は、戦国時代以降の複雑な政治情勢の中、本願寺、公家、戦国大名、加賀前田家などと血縁関係をもち、越中における触頭として近年に至るまで権勢を振るいました。

伽藍は約3万㎡、樹齢400年と思われる古木もあり、戦国時代や大伴家持が国守として5年間滞在していた国庁跡等、往事を偲ばれる景観を残しています。

また、本堂をはじめ総門、唐門、書院、大広間など江戸期に形成された12棟の建造物が重要文化財に指定されています。

ています。  
そして、重要文化財洛中洛外図屏風をはじめ、美術工芸、古文書等、貴重な歴史資料の宝庫でもあります。

## 戦国大名と勝興寺の歴史

江戸	安土桃山	室町
1618 本願寺・前田藩主家の両方から堅固に支えられる十一代藩主治信が養子に迎えられ住職となる	1588 寺領として百俵の地を寄進し、手厚い庇護を加える	1519 小矢部の安養寺に移る(寺内町・伽藍形成) 細川晴元・武田信玄・朝倉義景・本願寺門主顯如・勝興寺住職顯榮との間に縁戚関係が結ばれる 院家八ヶ寺の内に数えられ権力的立場が不動のものになる。
	1585 前田利長が制札を与える	1517 順徳天皇の御陵を護持していた「殊勝普願興行寺」を再興継承して勝興寺と称した
	1584 佐々成政の要請を受け神保氏張が賛同し古国府城一円を勝興寺に寄進。 現在の地・高岡市伏木古国府に移転	

勝興寺と前田家はつながりが深かったんだよ。



## 伽藍配置と七不思議

勝興寺にはこんな七不思議が言い伝えられているよ。



- ① 実ならずの銀杏**  
むかし実を取ろうとして子どもが枝から落ちてけがをしたので住職がお経をあげ実がなくなりました。
- ② 天から降った石**  
国分の海に落ちてきて夜泣きのような音を出すので勝興寺に安置された。たたくとキーンという音がする。
- ③ 水の涸れない池**  
夜になると竜が雨を降らせるので涸れない。
- ④ 魔除けの柱**  
物事を完璧に仕上げると後は廃れるということから本堂の柱は樺だがこの1本だけを桜にして未完成ということにした。当時のいわれで魔除けのために欠点を1つ作った。
- ⑤ 雲龍の硯**  
蓮如上人が使うときは水が自然にでてきたとか
- ⑥ 三葉の松**  
3枚の葉をつけるという本堂北側の松。
- ⑦ 屋根を支える猿**  
長年猿とされてきたが平成の大修理で天邪鬼であることが判明。





# 勝興寺と前田家のつながり

近世以降、加賀藩主家との関係を深めていった勝興寺。六代当主前田吉徳よしのりの十男の尊丸たかまるは、1756年入寺。1761年に勝興寺住持しゅうじとなりました。しかし、七代当主前田宗辰むねとむ以降、藩主の早逝が続き、尊丸が勝興寺から還俗して、名を治脩はるほと改め1771年に十一代当主となりました。1836年には、前田土佐守家七代当主直時の弟、直棟なおとしが入寺し、翌年には住持となり勝興寺二十二世広済こうさいを名乗りました。寺院にはいる・住職になるというのは当時の公家・上級武士家では嫡子以外の子女たちが進む道のひとつでした。

一向宗の一大拠点として北陸を統括できる寺院でした。寺内町の木の扉には無節のものがみられ、当時の勢力を物語っています。



## 寺内町

寺内町とは、室町時代に浄土真宗などの一向宗寺院しやうじゆう(御坊)を中心に形成された、濠や土塁で囲まれた集落です。



寺内町

江戸時代まで続いた西派の触頭であった勝興寺の寺内町は全国的にも知られています。

# 「相撲の大好きな時次郎さん」

伏木に伝わる民話

今から200年ほど昔の話、伏木の勝興寺に時次郎さんというご連枝さんがおらっしゃったがやと。時次郎さんは、相撲が大好きで勝興寺の境内に伏木じゅうの若いもんを集めて相撲大会を開き、自分も相撲をとらっしゃったがやと。



も時次郎はんは「もうちよっこきつてもおらんがやと。時次郎はんは「もうちよっこきつてもおらんがやと。時次郎はんは「もうちよっこきつてもおらんがやと。時次郎はんは「もうちよっこきつてもおらんがやと。」

そしたらのおー矢田の若いもんが出てきてご連枝はんをうつつけてしもうたがやと。時次郎はんは、「お前みたいにくっつきもおらん。好きなだけ褒美をつかわすのでなんでも言うてみよ」といわつっしゃったがやと。矢田の若いもんちよっこ考えてから「おらあー田んぼもつとらんけー田んぼくだはれまー」と言うたがやと。そしたら時次郎はん「よっしゃわかかった、明日の朝、矢田の御前山に登ってそこから見える田んぼんーなおまえにやる」と言わはつたがやと。次の朝、みんなで矢田の御前山に登つたがやと。そしたらのおーその日は曇つておつたもんで、ちよっこしか田んぼあたらんだがやと。

この時次郎さんとは、六代目の当主・前田吉徳様の十男坊で、十二歳で勝興寺に入寺され、後の十一代当主となられた治脩はるほはるなが様ですよ。いくら相撲好きでも田んぼ全部くれるなんてびつくりだね！



# 越中国庁跡(万葉ゆかりの地)

越中の国庁は、勝興寺境内一帯にあったとされています。国守館(宿舎)は、現代の勝興寺前の伏木測候所付近にありました。国庁跡碑の裏には、越中国司であった大伴家持の歌が刻まれています。

あしひきの山の本来(こぬれ)のほよ取りてかざしつらくは千年寿(ほ)くとそ



国庁跡碑



国守館跡碑

勝興寺の北西の角には寺井の跡があり、ここでも歌っています。万葉文化のページをみてね。



## 御満座法要

親鸞聖人の命日に合わせ、1月14日から16日にかけて約150kgもの「でかローソク」を灯して報恩講が行われます。



御満座法要

燭台も入れると高さ約3m!この大きさ、信仰心の表れでしょうか



# 伏木・吉久と祭礼行事

## ～海運産業と祭りの関わり～



### 加賀藩随一の御蔵所

米商の繁栄を物語る町並み

米は越中の主要産物であり17世紀中頃、現・高岡市域は加賀藩の御蔵所が何ヶ所もありました。収穫米は藩のお蔵入り(財産)、家臣の知行(給与)、生産者の手元と分配されました。

米は御蔵に積み上げられ、小矢部川を下り、伏木より船で大坂に運ばれ現金化され(廻米)、城普請や参勤交代の資金を工面するのに役立ちました。

米の流通で高岡は加賀百万石の台所と呼ばれるほどに繁栄したんだよ!



特に吉久は北前船が出入りする伏木港にも近く、流通の中継地点に適していました。規模も大きく加賀藩の金庫的存在でした。御蔵は明治維新により、税金が米から現金となり廃止されましたが、それ以降も米の流通に精通する豪農たちは米商として活躍、吉久も流通の拠点となりました。1930年代、米の統制が厳しくなると、政府が米を直接買い取るようになり、米商の時代は終わりました。明治から昭和にかけて米商が建てた切妻、出桁造り

の狭間虫籠と呼ばれる千本格子の町家は今も残り、伝統的町並みを形成しています。



国登録有形文化財 有藤家

### 物資輸送の大動脈

#### 伏木浦と北前船の繁栄

北前船は日本海側の東北諸港に立ち寄り、船頭自らが商品売買をおこないながら航海する廻船です。1枚の帆を張って走る弁財船のため、海難事故も多く危険でしたが、上方(大阪)と蝦夷地(北海道)の地域間格差を



ニシン釜



北前船の航路  
廻船問屋は1年間に1千両もの莫大な利益を上げました。

春、ニシン漁には一攫千金を求めて各地から出稼ぎ漁師が集まりました。ニシンはそのほとんどは肥料用途でした。大釜で炊いて油を搾り出し、そのカスが、みかん・綿・藍・紅花など商品作物栽培用の高級肥料となりました。また、このニシン漁の際に歌われた労働歌が有名なソーラン節です。明治・大正期の農村不況と国家事業である北海道開拓の際、富山県から一番多く移住者がきました。

#### 伏木・吉久 海運史年表

江戸	明治	大正	昭和
1650頃 吉久が加賀藩の御蔵所に	1700頃 高岡が加賀藩の経済都市として繁栄	1800頃 伏木浦の繁栄、北前船の隆盛	1868 明治維新 御蔵所の廃止
	1870頃 ニシン漁最盛期	1880頃 鉄道網整備により北前船衰退	1930頃 政府が米の直接買い取り
	↓吉久の豪農が米商へ転身し繁栄	↓廻船業者資本家へ転身	↓米商の衰退



#### 高岡歴史マメ知識



北前船で莫大な富を生んだニシン漁ですが、それゆえ「ニシンは魚に非ず、米である。」と言われ、鯡という当て字が使われる程でした。また、当時北海道にはニシン御殿が多く建ったとか。ちなみに八代聖紀の代表曲である「舟歌」はこのニシン漁の漁師がモデルともいわれます。背景を知ったうえで聞けばより味わい深く聞けるかも？



## 伏木曳山祭

「かつちゃ」で魅せる港町の誇り

曳山は富山県西部の港町や宿場町で栄えた地域に多くみられます。

伏木地区では伏木神社の祭礼として5月15日に執り行われます。

曳山は、神が宿るとされる山において元来行われていた祭礼を、下界の町に迎えるため輿に車輪を付けたのがその起り点とされます。疫神を払う矛を立て、降りる目印として依代を付け、現在の姿となっています。

曳山は神様を宿す  
神聖な乗り物なんだね!



伏木の曳山では、豪華な車輪金具を備える高岡の御車山への配慮から、シンプルな車輪にするなど下山の美化を抑え、

代わりに上山の装飾に力が注がれているのが特徴です。



花山車

港町の気質が色濃く残り、山車をぶつけ合う「かつちゃ」も元々は他町の

山車が進路の邪魔をするのを力づくでぶつけて壊してでも自分達の進路を確保しようとする行なわれていた事に由来するともいわれます。



提灯山車

## 吉久の獅子舞

米商の繁栄を残す豪快さ

吉久地区(通称「ヨツサ」)の獅子舞は、毎年10月第3土曜日に吉久神明社秋季祭礼に合わせ行われています。現在は保存会にて伝承・運営され、吉久地区の町並みを回り、新築や婚礼など招待花の家へも訪れます。加賀獅子の流れを汲みながらも豪快な舞が特徴的です。獅子舞が盛んなこの地域にあっても特に熱心に練習が行われ、高い評価を受けています。

豪快な獅子舞は吉久の米商が活躍した頃がルーツなのかもね。



2人、3人で叩く勇壮な太鼓は見る人を虜にする魅力を有し、踊りと踊りの間も切れ間なく囃子が流れ続けます。また、毛冠を被った天狗や二人組のキリコが獅子と絶妙の距離感で繰り広げる踊りは、囃子の音色も相まってこの上ない一体感を醸し出します。

招待花において、花口上を詠みあげ天狗に導かれた獅子が座敷に舞い込む「ハイッタハイッタ」はかつての隆盛を偲ばせる吉久の町並みと一体化し、この地区ならではの趣を感じさせてくれます。

## 藤井能三

熱意と私財を町の発展に注いだ偉人

藤井能三は、伏木の廻船問屋「能登屋」に生まれました。ある時、神戸港の繁栄を見た事をきっかけに伏木の近代化に取り組む事を決意。そして富山県初の公立小学校(現・伏木小学校)を私費で設立しました。当時珍しく英語の授業を取り入れるなど先進的な教育をする学校でした。

また、三菱の岩崎弥太郎と交渉し、伏木と東京・大阪・北海道の航路を結ぶことに成功。他にも、中越鉄道(現JR氷見線、城端線)を開通させるなど、代々廻船問屋として手にした富を全て投げうってまでも伏木の町づくりの人生を捧げた功労者です。



藤井能三像



藤井能三生家跡

能三さんは伏木の発展を築いた恩人なんだね。



# 旧北陸道

## ～人と物資の大動脈～

旧北陸道(=北陸街道)は江戸時代の初め、加賀藩の参勤交代のために整備されました。

古代から変遷を見ながらその経路は、現代に及んでいます。

旧北陸道沿いには、福岡・立野・和田といった町が街道沿いの宿場や独自の産業で賑わいをみせた趣があります。



### 福岡 福岡の伝統的産業

#### 菅笠づくり

菅笠の町としての歴史は、今から400年あまりさかのぼり、加賀藩から特産として奨励され、福岡地区ではほとんどの家が笠作りに従事していました。男性が笠骨を作り、女性が笠をぬう作業を担当していました。菅笠が福岡町の伝統的な特産品として発展したかげには、昔から今に至るまで創作・改良・販路の開拓などの努力があり、優れた技術、素朴な手作りの良さが人々の心をとらえて、全国シェアの9割を占めています。

2009年、「越中福岡の菅笠製作技術」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

みんながやっていた昔と違い、現在では職人の高齢化に直面しているんだ。でも、文化財に指定されたことが、追い風になり後継者が育ってきてるよ。



### 養鯉業

福岡の養鯉は古く、1866年、奈良の郡山から種鯉を数匹、矢部の地へ移入して養殖を始めたものです。このあたりは庄川と小矢部川にはさまれた湿地帯で、水は豊富にあるものの水

田開拓が難しく、沼地が多かったのを利用しました。「鯉の里公園」には、このような歴史的資料の展示をはじめ、錦鯉の飼育方法や古くから養殖に使われてきた道具類、パネル写真などが展示されています。

幕末から受け継がれてきたブランドなんだよ。



### 「新月の笛」

高岡市福岡町土屋の竹笛ブランド「新月の笛」では、明治初期から竹笛



雅楽の館

雅楽の館では、楽器や装束を展示しています。建物は、昭和初期に建てられた商家「瀧邸」です。

を作っています。笛作り初代窪谷新四郎は国泰寺の虚無僧で三代の新顕氏が「新月」と号しました。澄んだ音色と漆塗りの美しい竹笛です。また雅楽は、江戸時代末期に福岡町に伝わったとされ、現在でも継承され高岡市の無形文化財に指定されています。

### 立野 立野をめぐる米の道

高岡城築城後、北陸道が今石動く立野く横田く高岡く古定塚となり、立野地区は宿場町になりました。年貢米を納める御蔵があり、雲照寺の本堂は旧

立野御蔵の遺構を利用したものや伝えられています。米は、町の中央を流れる中川で舟積みされ小矢部川に出て、木町を経て吉久や伏木まで下ったそうです。



雲照寺

### 和田 和田の町立てと義民佐助

高岡城築城によって、和田地区は人馬の往来で賑わうようになり、住民による町立ての嘆願が藩から許可されました。しかし人々は重い税に苦しみ、村役人の佐助は、禁を犯して隠し田を開きます。これが知れ、磔の刑となる佐助。刑の執行直前、隠し田は住民を守るため仕方ないことであつたという思いが藩主に伝わり赦免状を持つた急使が橋まできて「やめーつ」と叫びましたが、執行の役人が「急げ」と聞き違えて処刑されてしまいました。

佐助は、犠牲を覚悟し、生命をかけて町民を守った…。その行為に人々は感謝し、町立てが許された10月15日を御印祭(佐助祭)とし、各家の軒先に行灯を掲げ、佐助の好物だった「いもがもち」(里芋と米をつぶして作ったおはぎ)を食べて、その遺徳を偲ぶのだそうです。



佐助の行灯

先に行灯を掲げ、佐助の好物だった「いもがもち」(里芋と米をつぶして作ったおはぎ)を食べて、その遺徳を偲ぶのだそうです。

### 高岡歴史マメ知識



立野の末端、祖父川に近いところに「おたん清水」があります。「おたん」という女性が福岡の大地震を避け立野に来ましたが、湧出している清泉で馬に水を飲ませようとして誤って泉に落ち、溺死してしまいます。それからというもの、泉に向かい「おたん」と呼びかけると、ぶくぶくと泡立つといわれています。



# 万葉文化

## ～家持が愛した高岡～



ここからは古と近現代の高岡へと時代を行き来します。  
まず万葉文化は僕が案内します。

746年7月、大伴家持は越中国府に赴任してきました。越中国府は伏木にあつたとされ、国庁は現在の伏木国府の勝興寺一带にあつたと推測されています。万葉集は現存する日本最古の和歌集で、書写され幾百年を読み継がれてきました。赴任2年目の家持は、創作意欲も高まり「二上の賦」「布勢の水海に遊覧する賦」「立山の賦」をつくり、3年目には「あゆの風」と越海の波に心を動かし、奈古の海の印象を望郷の思いも込めて歌にしました。前田家は、貴重な古写本を多数蒐集し天下の書府と称せられ、後の万葉集の研究に多大な貢献をしました。



馬並めていざうち行かな  
磯谷の清き磯辺に  
寄する波見に

大伴家持

(巻十七・三九五四)

馬を並べて、  
さあ出かけよう  
じゃないか。  
磯谷の清らかな  
磯辺に  
打ち寄せる波を  
見るために



337首は、「越中万葉」と言います。



もののふのやそ娘子らが  
汲みまどう寺井の上の  
かたかごの花

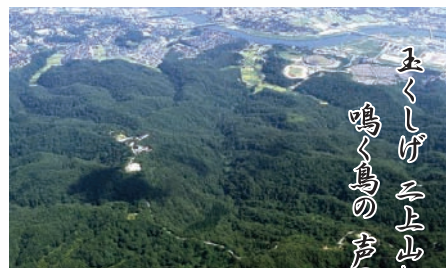
たくさん乙女  
たちが入り  
乱れて水を汲ん  
でいる  
寺井のほとりに  
群がり咲いてい  
るかたかごの花



立山に降り置ける雪を  
常夏に見れども飽かず

神からならし

立山に降り置い  
ている雪は、  
夏のいま見ても  
みあきることが  
ない。  
神の山だからに  
ちがいない



よくしげよ立山に  
鳴く鳥の声の恋しき

時は来にけり

二上山に鳴く  
鳥の声を  
恋いこがれる時が、  
とうとう  
やってきた

## 万葉を見渡せる橋

伏木万葉大橋は2009年8月に開通しました。橋は万葉集に歌われる射水河(現・小矢部川)にかかり、立山、奈古の海、二上山が一望できます。橋の上には、4箇所のバルコニーがあり、両岸校下の中学生の揮毫による万葉和歌のレリーフが設置されています。



東風(あゆのかぜ)  
いたく吹くらし

奈古の海人(なごのあま)の  
釣する小舟  
漕ぎ隠る見ゆ

あゆの風が激しく吹いているらしい。  
奈古の海人たちの釣する小舟の漕ぎ進むのが高波の間から見え隠れしている

万葉集は昔から愛されつづけている日本が誇る文化です。たくさん家持の歌が今も万葉の地・高岡を訪れる人々を魅了しています。



# 高岡大仏

## ～再建に賭ける町人の熱意～

高岡大仏はもちろんボクが紹介します！



### 日本三大仏の一つ

特徴はルックス？

高岡大仏（銅造 阿弥陀如来坐像）は奈良、鎌倉の大仏と並ぶ日本三大仏の一つに数えられます。また、1933年、歌人・与謝野晶子が高岡を訪れた際に、「鎌倉大仏より一段と美男」と評したイケメン大仏です。



3代目高岡大仏

### 建立の由来

元は木造、堂内安置だった？

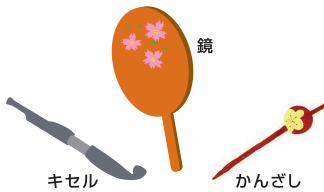
高岡大仏のルーツは木造大仏が二上山の麓に建立され、それが高岡城築城時にさらに移転された事にさかのぼるといわれています。そして1745年、現在地にて初代の金色の木造大仏が建立されましたが、1821年大火で焼失しました。

1841年、町民が再建に努め、2代目の木造大仏が再建されましたがこれも、1900年の高岡大火で再び焼失しました。その大仏は現在の様な露座（野ざらし）ではなく、大仏堂の中に安置されていたといわれます。

### 町人悲願の不燃大仏

3度目の大仏再建

1907年、3代目大仏の再建を望む声が高まり、信徒の世話頭である松木宗左衛門が奔走しました。不燃の青銅製とするため、製作には高岡銅器職人らが全面協力しました。しかし大量の青銅を工面する資金がなく、まずは御尊顔（仏頭）のみ作られました。その際、町の人びとから寄進された鏡やキセル、かんざしなど、「金（かね）」とつくものなら何でも溶かして作られるなどその苦難と再建への思いを物語ります。



仏頭完成記念の集合写真



ボクがいるのもこの時に頑張ってくれた人たちのおかげなんだね。みんなありがとう！

完成に力を注いだ人びとの強い思いが詰まっているんだね！



### 時鐘

焼失から約30年の歳月ののち、1932年に3代目大仏が完成しました。のちに取り付けられた円光背のある仏像は全国的にも珍しく、その背面には寄進者の名前がびっしりと刻まれています。



時鐘

境内にある釣鐘は時鐘と言われ、元々は江戸時代町民に時刻を知らせるために作られました。数度の火災の後、現在地の大佛寺に移されました。

### 日本三大大仏比較



奈良大仏 (約14m)



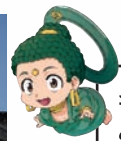
鎌倉大仏 (約11m)



高岡大仏 (約7m)



大仏背面 円光背



ボクの背中も見てみてね！

高岡大仏

### 高岡歴史マネ知識



毎年9月の大仏まつりの際、有志が大仏の上まで登り、大仏のお身ぬぐいをして拭き清めています。再建時だけでなく今もその思いを受け継ぐ人々によって大切にされているんですね。お身ぬぐいは一般からも参加者を募集しているようですよ。



# 現代の高岡

## ～歴史都市として～



さて皆さん、高岡の歴史的な魅力がここまでご紹介してきましたが、いかがだったでしょうか？

これまで取り上げてきた歴史的な建物や、それにまつわる伝統工芸、祭礼行事といったものは、今でも多くのものが受け継がれています。

左には、現代の高岡で開催されている歴史関連の主なイベントをまとめてみました。ぜひ参加してみてください！



### 高岡 歴史イベントスケジュール

1月14～16日	勝興寺御満座法要	17ページ
5月 1日	高岡御車山祭	10ページ
5月 3日	高岡獅子舞大競演会	
5月15日	伏木曳山祭	19ページ
6月 1日	ひとつやいと	15ページ
6月2・3日	国泰寺開山忌	
6月19・20日	御印祭	13ページ
7月 1日	ひとつやいと	15ページ
9月13日	前田利長公顕彰祭	15ページ
9月22・23日	高岡大仏まつり	22ページ
9月23・24日	つくりもんまつり	
10月第1金～日	万葉まつり	
10月第3土曜	吉久の獅子舞	19ページ

※吉久以外にも、春・秋の祭礼時期に市内各地で獅子舞が開催されています。

10月の「万葉まつり」では、万葉集全二十巻、4500首以上の歌を三昼夜かけてリレー方式で歌い継ぐよ！特設水上舞台で、古代の衣装をまとい気分はすっかり奈良時代!? 詠み方も人それぞれです。素人でも大丈夫！ぜひ奈良の人々の気持ちに触れてみて下さい。



万葉まつり特設水上舞台



### あみたん娘の勝手に座談会

ほんと高岡って歴史のあるイベントが色々あるよね！お祭りも楽しみだな。

高岡のお祭りといえば、やっぱりまずは「御車山祭」だよ！人も屋台もいっぱいだよ、5月1日はすごい賑わいだよ！

そういえば、1日の御車山祭と15日の伏木曳山祭って、どちらかが晴れるともう片方は雨が降るんだとか…？不思議なウワサがあるよね！

ええ！どっちも晴れたらいいのに！他のイベントも、昔ながらの風情を感じられていいよね。御印祭の男踊りステキ！

高岡大仏まつりも忘れないでね！毎年恒例、大仏のお身ぬぐいもあるんだよ。

ずっと座ったままで、お風呂にも入れないんだ!? 大仏さまも結構大変なんだね。

よし気合入れてピカピカに磨いてあげようね！



### 高岡歴史マメ知識

福岡町の「つくりもんまつり」は、300年余りの伝統があります。かつては、一軒の家にお地藏様を集めて餅・野菜・果物・お菓子等をお供えた「地藏まつり」が行われていたそうですが、現在は、野菜や果物を使ってユーモアたっぷりの作品を作る祭りとなりました。長い年月の間に祭りも姿を変えていくのですね。

# 歴史都市のこれから

〜まずは意識が大切〜

本書の冒頭で触れましたが、高岡市はいわゆる「歴史都市」として認定されました。これにより、市民が自分たちのまちの歴史と伝統を再認識し、誇りと愛着を持てるような「歴史都市」を目指して、文化財の保存や価値の向上を図るための取組みが今後進められます。

素晴らしいことだね！  
でも、建物や文化に歴史的価値があるかどうか、みんなちゃんとわかってるのかな？



いい所が気がついたね！  
そう、それが大切なのです。



自分達が普段から目にしてるものというのは、「当たり前」の存在です。当たり前前ものには、残念ながらもなかなか価値を感じる事ができないのではないのでしょうか？  
近所の見慣れた古臭い建物にも、実は大変な歴史的価値があるかもしれませんよ。

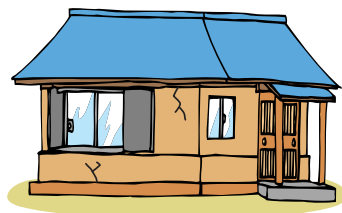
高岡大仏も、  
こう見えても深い歴史があったこと...  
わかってもらえたかな？



# 歴史を受け継ぐ

〜無くすのは簡単だけど〜

歴史に対して、時に現実は無情です。建物であれば、歴史的価値があったとしても、安全面や財政面など様々な事情によって取り壊されてしまうことがあります。また伝統工芸や祭礼行事であれば、それを受け継いでいく担い手がいなくなれば、続けていくことはできません。



本当は価値のあるものも放っておいたら、自然と廃れていって、いずれ無くなってしまってもいいんだね...。



昔からある建物や文化。無くしてしまうのは簡単です。しかし安易に無くしたりせず、それらの価値をしっかりと理解して、どうやって後世に遺し、伝えていけるのかということを考えていきたいものですね。

「保存する」というだけでなく、  
経済的に成り立つように  
うまく「活用する」ことも  
大切なのかもしれないね。



高岡にはこれまで紹介してきたような素晴らしい歴史があります。それを無くしてしまうのか、それとも受け継いでさらに素晴らしい歴史を紡いでいけるのか。それは今を生きる私たち次第なのです。

万葉文化が受け継がれて、  
今は越中万葉かるたにも  
なっているんだよ！



西暦2109年には、開町500年！  
その時には  
どんな高岡になっているかな？



私たちも高岡の歴史の素晴らしさを  
伝えていけるように頑張ります！  
これからもよろしくお願いします！



現代の高岡

## 高岡歴史 マメ知識



1月には、日本海高岡なべ祭りが開催されています。日本海の新鮮な魚介類や野菜を直径2メートル以上ものジャンボ鍋で煮込みますが、この鍋は高岡を代表する産業であるアルミや銅を用いて製造されています。始まったのは1987年からですが、ずっと続けば「高岡の産業を象徴する祭」として歴史に残るかもしれません。



## 謝 辞

本書の編集にあたり、本当に多くの方々のご指導・ご協力を賜りました。快く取材に応じて頂いた皆様、内容についてご指導を賜りました皆様、誠にありがとうございました。心から御礼申し上げますと共に、以下にご芳名を記させていただきます。

## (50音順、敬称略)

雅楽の館、金屋町自治会、金屋町まちづくり協議会、御印祭実行委員会、晒谷和子、勝興寺、菅野克志、瑞龍寺、高岡市、高岡市万葉歴史館、高岡商工会議所、高岡市立博物館、高木秋夫、林悦郎、伏木曳山実行委員会、前田土佐守資料館、町屋散歩プロジェクト

## 参考資料

「高岡古城志」(高岡市立中央図書館)、「日本100名城公式ガイドブック」(財団法人日本城郭協会)、  
「金屋町開町400年記念誌『鑄物のまち・金屋』」(金屋町開町400年祭実行委員会)、  
「よっさ 神社と獅子舞」(吉久獅子舞保存会)、「図説 富山県の歴史」(河出書房新社)、  
「富山県の曳山」(富山県郷土史会)、「伏木曳山祭発見」(伏木文化会)、  
「常設展『高岡ものがたり』」・「企画展『高岡城』」・「企画展『高岡の老舗』」・「企画展『福岡の歴史と文化』」(以上高岡市立博物館)、  
「高岡市史」・「たかおかー歴史との出会いー高岡市市制100年記念誌」・「商都高岡五つの町並み・建築美再発見」・「高岡市歴史まちづくり計画」(以上高岡市)  
「前田土佐守家資料館だより起居録第33号」(前田土佐守資料館)、「大名の日本地図」(文春新書)

## 写真提供

高岡市教育委員会文化財課(P12仁安の御繪旨・P15顕彰祭・P17御万座)、いこまいけ高岡(P10山町紋、P11全点)、  
高岡市立博物館(P7二段目～P8全点・P9高岡米穀取引所・P22仏頭完成記念)、  
高岡市教育委員会生涯学習課(P7龍女・P20佐助の行灯)、  
高岡市(表紙万葉まつり・表紙御車山・P2瑞龍寺・P3御車山・P13町並み・P13やがえふ・P19提灯山車・P21雨晴2点・  
P21二上山・P23万葉まつり・裏表紙高岡大仏)、  
瑞龍寺(P15位牌・P15烏瑟沙摩明王像・P15燭光能)、勝興寺(P16本堂・P21かたかご)

## 歴史都市たかおか ～我らのまちに歴史あり！～

発行日	平成24年10月
発行	高岡商工会議所青年部 会長 津田 晋也 〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40 TEL:0766-23-5000 FAX:0766-22-6792
編集	高岡商工会議所青年部 平成24年度 歴史都市高岡委員会 委員長 立野井 亮

